

気候変動に適応した主要露地野菜の栽培体系確立

1 目 的

近年の気候変動により従来の作期では、野菜の露地栽培が気候と合わなくなってきた。そこで、主要露地野菜品目について、現状の気候条件に適応する新しい作型、品種、栽培方法について検討する。

2 研究計画・試験方法等(その1)

1) 作期変動への適応策

- a 寒締めホウレンソウ
播種時期の晩化と適応品種の検討
- b ゆきな
播種時期の晩化と被覆資材の検討
- c キャベツ
播種時期の晩化と適応品種の検討
- d たまねぎ
直播栽培の播種適期と収量性の検討
- e ブロッコリー
定植時期と適応品種の検討
- f エダマメ
露地での早熟栽培と抑制栽培を
組み合わせた二期作の検討
- g セリ
高需要期出荷(12月) のための
定植晩限の検討



ちぢみゆきな



秋冬どりキャベツの定植晩限の検討



エダマメ早熟栽培の検討



タマネギの大規模生産のための直播栽培の検討



みやぎオリジナルセリ
新品種を活用し、高需
要期に向けた定植時期
の検討



気候変動に適応した主要露地野菜の栽培体系確立

2 研究計画・試験方法等(その2)

2) 生理的な障害への適応策

a ブロccoli花蕾障害

障害発生が少ない品種の選定と定植日, マルチによる障害抑制効果の検討

b ホウレンソウ初期生育不良

夏作に適した遮光資材や品種の検討

c レタスの抽苔抑制

結球レタスの露地夏どりや秋どり栽培に適した品種の検討

ブロッコリー花蕾障害



高温障害



高温による不正形花蕾(左)と正常花蕾



雨よけホウレンソウ夏季高温回避のための遮光資材の検討



夏どりの品種とレタス定植時期、マルチ資材の検討



地温抑制
有穴マルチ

